

葉色さらに低下！ 穂肥を確実に施用し、高温対策を！

【7月17日生育状況】（管内10か所平均、平均田植日5/23）

草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(葉)		葉色(SPAD)	
本年	指標値比	本年	指標値比	本年	指標値差	本年	指標値差
73	100% (並み)	412	96% (並み)	11.9	+0.3 (並み)	32.3	-3.0 (淡い)

- 葉色は指標値差-3.0で「淡い」。(前回7/10指標値差-1.8、「やや淡い」からさらに低下)
- 1か月予報(7/10新潟地方気象台発表)では、向こう1か月間の気温が高い確率は70%で平年に比べ晴れの日が多い見込み。

【今後の管理のポイント】

1 コシヒカリの出穂期予想と穂肥適期・量のめやす

田植日	幼穂形成期	出穂期予想	穂肥適期のめやす(カッコ内は出穂前日数)			1～2回目窒素成分合計量
			1回目	2回目	3回目	
5/15	7/9	8/1	7/14～17(18～15)	7/22(10)	7/29(3)	2～3 kg/10a
5/20	7/10	8/3	7/16～19(18～15)	7/24(10)	7/31(3)	
5/25	7/12	8/5	7/18～21(18～15)	7/26(10)	8/2(3)	

2 穂肥施用 ～高温が予想されているため、穂肥を確実に施用し後期栄養確保～

(1) 分施肥体系の場合

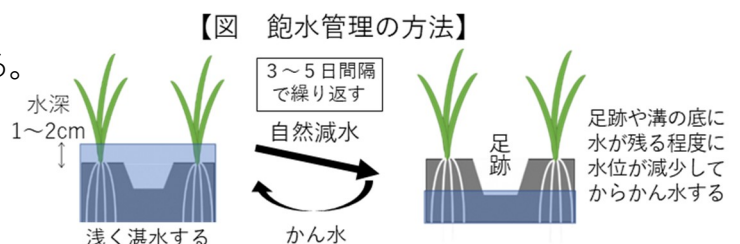
- ① 1回目穂肥を施用していない場合は、葉色維持のため予定量をすみやかに施用する。
- ② 2回目穂肥は、後期栄養を確保するため確実に施用
(出穂期10日前に窒素成分1～1.5kg/10a)
※2回目穂肥時期の葉色が淡い場合(SPAD値で31以下)は2回目穂肥施用量を増量する。
- ③ 3回目穂肥
2回目穂肥施用後も、葉色の回復が不十分な場合は、3回目穂肥を施用する。
(出穂期3日前頃に窒素成分1kg/10a)。

(2) 全量基肥一発施肥体系の場合

- 高温が予想されるため、出穂期の葉色(SPAD値)が32～33を下回ると予想される場合は追加穂肥を施用する。(出穂期10日前頃に窒素成分1～1.5kg/10a)。
(※特栽米で計画にない追加穂肥や施用量を増やす場合は所定の手続きを行う)

3 水管理は、飽水管理で品質・収量確保

- 飽水管理により、用水を有効活用し、根の活力を維持しながら地温上昇を抑える。
- かけ流しは、絶対にしない。
- 番水やローテーション等、地域での水管理体制を検討し、用水を有効利用する。



4 カメムシ斑点米対策の徹底

- 平年より発生が多いので畦畔・農道の除草を徹底する。今後の薬剤防除に向け準備をする。

農作業時の熱中症に注意しましょう。こまめな水分・塩分の補給や休憩が大切です。

次回発行
7月25日